

学校法人 西南女学院

「ご挨拶」



ロウ記念講堂(W.M.ヴォーリス設計)

このたびは、本写真展にお越しいただき、誠にありがとうございます。
西南女学院は1922(大正11)年に日本の女子教育への第一歩として、米国南部バプテスト派宣教師の働きと、教会女性会の尊い献金によって「キリスト教に基づく女子教育」を目的とし、北九州小倉の地に創立されました。地域の方々からご協力と励まし、ご指導をいただき、ここに100周年を迎えることができ、ひとえに皆様のおかげと感謝の気持ちでいっぱいでございます。

皆様にもご認識いただいているとおり、西南女学院は加速する社会の変化に適応し、支え合う社会を実現するべく、多様性を重視する学校として努めてまいりました。
聖書をひもときますと、コロサイの信徒への手紙3章14節には「愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。」とあります。

今日に至るまで、その愛と奉仕の精神を尊重し、他者に対する優しさと慈しみの心を擁した学生・生徒・園児を育て、それぞれの時代に沿った教育、研究活動の実践をとおして、建学の精神であります「感恩奉仕」の精神を継いだ女性を社会に送り出しています。

このたびの写真展をとおして、私ども西南女学院が地域の皆様とともに歩んだ時代を感じていただければと思います。

歴史の継承、そして次の100年に向かって、神と人に愛される学び舎としてこれからも邁進してまいります。

どうぞ心ゆくまでごゆっくりご覧いただきながら、西南女学院を心に憶えていただければ幸いです。

2021年12月1日



学校法人 西南女学院
院長 田中 紵二

西南女学院100年のあゆみ

1922年	西南女学院創立(5年制高等女学校)
1946年	西南女学院専門学校設置(英語科・生活科)
1947年	学制改革により西南女学院中学校設置
1948年	学制改革により西南女学院高等学校設置
1950年	西南女学院短期大学設置(英語科・家政科)
1952年	西南女学院幼稚園設置
1958年	短期大学に保育科併設
1971年	短期大学に食物栄養科併設
1980年	中高一貫教育開始
1994年	西南女学院大学保健福祉学部(看護学科・福祉学科)設置
2002年	大学保健福祉学部で栄養学科併設/短期大学食物栄養科を改組
2002年	西南女学院大学人文学部(人文学科)設置/短期大学英語科を改組
2002年	短期大学の家政科を生活創造学科に名称変更
2004年	西南女学院短期大学を西南女学院大学短期大学部に名称変更
2006年	大学人文学部人文学科を英語学科と観光文化学科に改組
2008年	西南女学院大学助産別科設置
2018年	短期大学部を保育科の単科短期大学部に再編
2022年	創立100周年

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 幅広い教養を身につけ、社会に貢献できる実践力を育む

保健福祉学部
看護学科・福祉学科
栄養学科
豊かな教養と倫理観を培いながら、看護、福祉、栄養の知識と技術を教授し、専門職者としての実践力と協働力を育みます。

人文学部
英語学科
観光文化学科
グローバル化・情報化が進む国際社会及び地域社会に貢献できる人材を育成します。

1年課程 助産別科
助産の対象である女性、乳幼児およびその家族を全人的に理解し、助産の知識と実践力を有した助産師を育成します。

短期大学部 保育科
英語を通して実践力を身につけながら、子どもを深く理解し、豊かな成長や発達を支えられる保育者を育成します。

北九州小倉の地で100年にわたって「キリスト教に基づく女子教育」を継続しています。

西南女学院は「感恩奉仕」を建学の精神とし、キリスト教に基づく女子教育を行う学園です。1922年に日本の女子教育への篤い思いを抱いた米国南部バプテスト派の宣教師と、その呼びかけに応じた南部バプテスト派の女性たち、並びに教会の尊い献金によって創立されました。
創立100周年を迎える今日に至るまで、それぞれの時代にふさわしい教育・研究活動を通じて、「感恩奉仕」の精神をもつ約73000人以上の卒業生を社会に送り出してきました。

現在の西南女学院は、大学、短期大学、高等学校、中学校、幼稚園を擁する総合学園となっています。大学は保健福祉学部(看護学科・福祉学科・栄養学科)、人文学部(英語学科・観光文化学科)、別科(助産別科)、そして短期大学部は保育科により構成されています。
コロナ禍においても西南女学院の学生、生徒、園児は十分な感染対策のもとで元気に学習を続けています。神様に見守られて夢と希望をもって前進しています。



西南女学院の女子教育の要、それは「感恩奉仕」の心にあります。
西南女学院の建学の精神である「感恩奉仕」。それは私たちが神の愛のなかに生かされていることに感謝し、社会や家族に愛をもって仕えていくということ。すなわち、神をとおして家族やさまざまな人との関わりをなかで生かされていることに感謝し、その恩に報いるよう、周囲の人や社会に奉仕していくことです。自分が生かされているということを見出し、周囲の人々に感謝する気持ちをもつ。そして目の前にいる相手のため、世界の誰かのためにできることを自ら考え、一生懸命に行動する女性を育てることが、私たちの女子教育の要です。

西南女学院は、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学を擁する総合学園です。

西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

西南女学院大学・短期大学部では、キリスト教を教育の基盤として、広く知識を授け、深い専門の学芸を教授研究すると共に、豊かな人間性を涵養し、日本の福祉と文化の発展に貢献する有為の人材を育成することを目指しています。

西南女学院中学校・高等学校

西南女学院中学校・高等学校では、1922年の開校以来、キリスト教に基づく女子教育を守っています。大切に受け継がれてきた確かな伝統に基づき、日本の、そして世界の将来を担う、知性に富み、愛情豊かな女性を育成します。

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園

シオン山幼稚園は、1950年にシオン山教会の婦人の聖霊に基づく幼児教育を求める祈りによって、開園されました。短期大学部の実習および研究の協力園として、神と人との愛される子どもたちの育成を目指しています。

西南女学院中学校・高等学校 中高一貫教育で、グローバルに社会貢献できる女性を育成

継続と努力で確かな成果が得られます
西南女学院では、はじめは基礎からしっかりと固めていき、日々の授業や個人指導のサポートで、卒業するまでに高い英語力を身につけます。

本校の6年次のスピーキング力

- 海外の大学に進学が可能なレベル
- 海外の高校の授業に参加可能なレベル
- 日常会話を楽しめるレベル/海外のホームステイや語学研修を楽しめるレベル

一日中英語に触れられる貴重な体験
イングリッシュデイ

さまざまな国の文化や考えに触れる
AIE(早期国際化教育)研修

豊かな経験を積み、異文化への理解を育む
語学研修旅行

日頃学んできた英語を活かして、英語でのスピーチやディベートのコンテスト、英語によるパフォーマンスを披露します。

校外の研修施設で、九州大学や立命館アジア太平洋大学などの国際学生たちのサポートを受けながら、さまざまな活動を行います。

ホストファミリーや現地の人々と交流し、異文化を体験することで豊かな感性を養います。
※高校生と5年生で実施。5年生は国内研修旅行も実施します。

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 神と人々に愛される子どもを育てる

【目指す子ども像】

- キリスト教保育を基盤とした愛と命の大切さを知る
- 友達と一緒に遊んだり活動したりすることを学ぶ
- 知的な好奇心と感動する心を持ち、主体的に考え行動する



上空から見た西南女学院 (2021年5月23日撮影)
手前が北陵(法人本部・大学・短期大学部・幼稚園)
奥が南陵(中学校・高等学校)



新型コロナウイルス感染拡大のなかでの学内演習



新型コロナウイルス感染拡大のなかでも西南女学院の教育は立ち止まりません



新型コロナウイルス感染症に負けずに元気に登園



西南女学院100年のあゆみ写真展

1. 創立期 (1922~1935)

「キリスト教に基づく女子教育」の実現に向け、希望のたすきが繋がれた。

1889(明治22)年、大日本帝国憲法が公布され、日本はアジア初の近代的立憲国家となりました。この帝国憲法において、ようやくキリスト教は公認されました。

1890年代に入り、宣教師たちは伝道の場として本格的な教育事業を計画します。そして1922(大正11)年4月1日、米国南部バプテスト派の宣教師と、その呼びかけに応えた南部バプテスト派の女性たち、そして教会の献金によって、「西南女学院」が設立されました。「キリスト教に基づく女子教育を行う」ことを目的に、キリスト教学、チャペル、クリスマス

礼拝などを通して、女子生徒たちの人格教育が図られていきました。

同時に、校舎の増築や教員の増員をはじめ、校友会、生徒自治会、同窓会など学院の内外に関係諸団体が組織され、西南女学院の基礎が確立されていきます。

創立期は産みの苦しみと喜びの時代でした。



西南女学院発祥の地 【1920年】

西南女学院設立地として福岡県企救郡板橋村到津(現在の中学校・高等学校)に校地が決定されました。



建築中の校務館・寄宿舎 【1921年】

2つの頂が切り開かれて西南女学院の校舎が建てられました。



創立当初の面接試験 【1922年】

80人の募集に対し約150人の応募があり、1922年4月には第1回生96人が入学しました。



校歌・楽譜 【1922年】

開校と同時に校歌が制定されました。



最初の日曜学校 【1922年】

日曜学校では、聖書の学びを通して、生徒たちの人格形成が行われました。



開校当初の寄宿舎生と職員 【1922年】

開校当初の寄宿舎生は1人だけだったそうです。



ロウ先生時代の院長館 【1922年】

ここで創立当初の職員会議や祈禱会が行われました。



朝鮮旅行 【1927年頃】

第1回生以来、卒業記念の修学旅行として朝鮮(現韓国)旅行を行っていました。



英語劇 【1931年】

複数のネイティブスピーカーの教師を立てて、英語教育の水準を高めました。



クリスマス祝会 【1933年】

キリスト教教育の一環として、夏季学校、秋の特別伝道集会、クリスマス祝会などの行事が行われました。



建築中のロウ記念講堂 【1935年】

1935年2月に献金式を行い、建築が進められました。建築資金のほとんどが卒業生、保護者からの寄付によって集められました。



竣工間もないロウ記念講堂 【1935年】

10月には、盛大な献金式が挙行されました。

～西南女学院は2022年に創立100周年を迎えます～



2. 受難期 (1936～1945)

国を挙げて戦時体制が強化されるなかで迎えた最大の危機を乗り越える。

財団法人西南女学院を設立した翌年の1939(昭和14)年、第二次世界大戦が始まりました。西南女学院は創立以来、最初にして最大の危機を迎えます。国家主義の世論が高揚する中で、官憲及び愛国同志会等から立ち退きを勧告されたのです。

1941(昭和16)年12月には太平洋戦争が勃発。戦局がますます激しさを増す1944(昭和19)年3月、県及び軍当局から西南女学院全施設徴用の相談を受けます。理事会、院長、教職員、保護者が奔走し、ようやく西南女学院存続の見通しがついた6月、全校地、

校舎を明け渡してシオンの丘を下りました。授業は、小倉高女体育館など3か所で分散して続行されました。

1945(昭和20)年8月15日、遂に終戦の日を迎えます。西南女学院が再びシオンの丘に復帰したのは9月8日のことです。600人の職員生徒全員で荒廃した校舎の復旧作業を行い、11月11日には「山上帰還記念音楽会」をロウ記念講堂で開催しました。

受難期は戦争によって翻弄された時代でした。



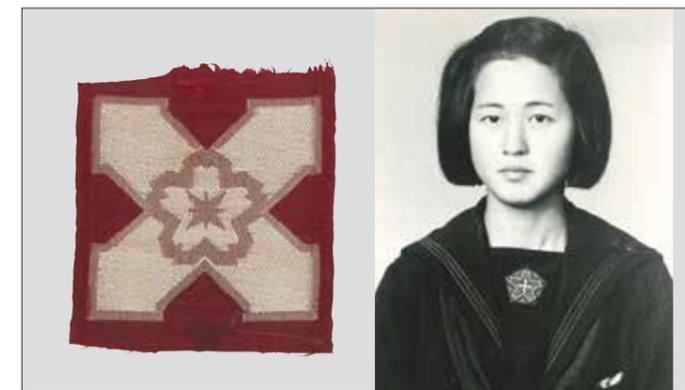
大分高等商業学校主催英語大会3年連続優勝 【1934年】
大分高等商業学校主催の英語大会に参加し、3年連続優勝しました。



当時の校舎 【1935年】
ロウ記念講堂竣工後、講堂の屋上より撮影した校舎の様子です。



迷彩に塗られたロウ記念講堂 【1937年】
この年の12月、軍部の指示で講堂全体に褐色と緑の横縞による迷彩が施されました。



変わる校章
1941年、SWAを施した校章は英語という理由で使えなくなり、十字架の中に桜を入れた桜校章になりました。さらに戦時色が濃くなると、桜花の中に小さな十字架が入った五角形の校章に変わります。



全国統一制服へ 【1941年】
1941年に入学した生徒の制服は、全国の女学生に支給された国民服に準じた物になりました。



駐屯兵との交流会 【1941年】
秋に行われた、軍との総合運動会の様子です。



戦没者慰霊式典 【1941年】
ロウ記念講堂が軍に接収されていた時に執り行われた、学院関係者の戦没慰霊の様子です。



戦時下の登校の様子 【1941年】
門扉も軍に接収され、登校時は登校指導の生徒が配置されました。



なぎなた訓練 【1941年】
戦時中、体育の時間ではなぎなた訓練をはじめ、担架運びやバケツ注水訓練などが行われました。



校庭の防空壕 【1941年】
現中学校・高等学校の敷地内に防空壕が作られました。



原松太院長・順子夫妻 【1944年】
西南女学院の全敷地・施設が軍によって接収され、シオンの丘を下りることになりました。その時の原松太院長・順子夫妻を撮影したものです。



学徒動員 【1945年】
終戦間際、監督教師引率の下、門鉄小倉工場、芝浦(現東芝)小倉工場、足立陸軍等に派遣されました。

3. 復興期 (1946~1961)

激動の戦後、女学院も大転換期を迎え今日の基盤を築いていく。

1945(昭和20)年、第二次世界大戦が終わり、国内では占領軍の強力な指導のもと教育改革が行われていきます。

1947(昭和22)年に教育基本法と学校教育法が制定されると、まず軍国主義的及び極端に国家主義的な教育者、科目、教材が排除されました。その後、現在に続く小学校、中学校の義務教育化や無月謝をはじめ、性別ではなく能力に応じた教育機会の均等化などを柱とする新しい教育制度が打ち出されたのでした。西南女学院でも、この改革に合わせて

5年だった修学年限を延ばして新制中学校と高等学校を発足させます。

また、この頃には、長年の夢だった西南女学院専門学校(女専)を設立し、1950(昭和25)年には西南女学院短期大学に発展します。その他シオン山教会付属の幼稚園として、シオン山幼稚園(後の西南女学院幼稚園)を開園、学院全体としては学校法人に組織変更するなど次々と新しい体制が整えられていきました。

復興期は激動の中での大きな変革の時代でした。



西南女学院専門学校の第1回入学式 【1946年】
1946年に西南女学院専門学校(女専)が開校されました。九州で3番目となる女専でした。初年度は英語科に51人、保健科に92人が入学しました。



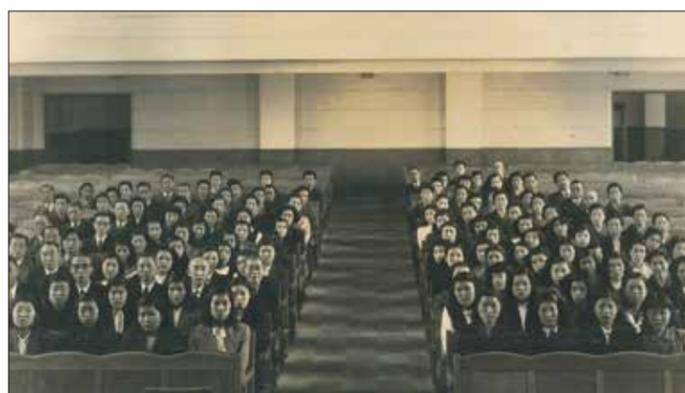
新制中学校2期生の入学式 【1948年】
戦後の教育改革により、西南女学院も5年だった修業年限を延ばして、1947年に新制中学校を、1948年に新制高等学校を新たに設置しました。



南陵を埋め尽くした1000人突破の中学校・高等学校の生徒
中学校・高等学校は大勢の入学者を迎え、1950年には合わせて1208人に達しました。



マロリー記念館の竣工 【1950年】
米国南部バプテスト婦人伝道部総主事であったキャサリン・マロリー女史の献金により、マロリー記念館が竣工しました。



西南女学院短期大学の第1回入学式 【1950年】
1950年に短期大学が開校し、初年度は英語科に28人、家政科に27人が入学しました。入学式はマロリー記念館で開催されました。



西南女学院幼稚園のクリスマス祝会 【1952年】
1952年に西南女学院幼稚園が開校されました。園舎は中学校グラウンド西側に建てられました。



寄宿舎で中高、短大生でお月見 【1953年】
当時の寄宿舎には中学生、高校生、短大生が入寮しており、1950年度後半には130人を超える大世帯となりました。



マロリー記念館の屋上で短期大学の体育実技



中学校・高等学校と短期大学の合同運動会
1960年頃までは中学校・高等学校と短期大学の合同運動会を中学校グラウンドで開催していました。



高等学校の授業風景 【1955年】
高等学校は大学進学に向けた授業カリキュラム大改正を行い、急速に発展しました。



年末募金活動 【1955年】
生徒たちは学習・信仰・課外活動など様々な局面で活躍を続けました。



原松太名誉院長の召天 【1959年】
女学院の発展のために多大な貢献をされた原松太名誉院長が享年75歳で召天されました。ロウ記念講堂で告別式が執り行われました。

4.成長期(1962~1976)

日本経済の発展とともに、新体制のもと由緒ある女学院として成長を続ける。

1962(昭和37)年3月、W.M.ギャロットが第7代院長に就任しました。理事長には、児童教育界の第一人者・福永ツギが選ばれ、新しい運営体制がスタートします。
この年、西南女学院は創立40周年を迎えます。以後、50周年までの10年間で「脱皮と充実」が急ピッチで進められ、5~6年のうちに女学院は見違えるような鉄筋校舎に建て替わっていきます。

1964(昭和39)年、西南女学院シオン山幼稚園は念願の短期大学附属幼稚園として新

しいスタートを切り、翌年には短期大学保育科実習園として本格的に発足しました。
大学進学熱が高まる中、短期大学も発展の時代を迎えます。1976(昭和51)年からの10数年間、志願者数は2000人を超え、西日本最古の由緒ある短期大学として、その名を馳せることになるのです。
成長期は女学院発展の礎を築いた時代でした。



西南女学院創立40周年記念式典 【1962年】
1962年10月5日、小倉市民会館(現在の勝山公園)で開催され、女学院のさらなる発展の決意表明がなされました。



創立40周年記念運動会 【1962年】
生徒たちの行進風景(台上はW.M.ギャロット院長)。



新生運動でバプテスト連盟伝道チームとしてハワード牧師一行が来訪 【1963年】
各校で特別伝道週間がもたれ、多くのバプテスマ決心者を出しました。



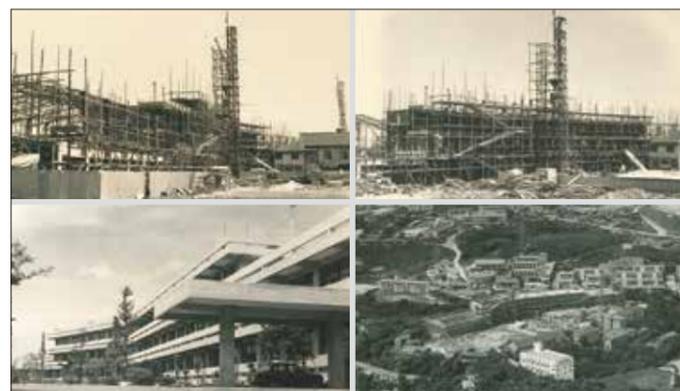
西南女学院総合計画に沿って施設設備の充実へ動き出す①
短期大学新校舎建築起工式(W.M.ギャロット院長・短期大学学長)【1964年】



西南女学院総合計画に沿って施設設備の充実へ動き出す②
短期大学南校舎解体後の様子 【1964年】



マロリー記念館隣に完成した短期大学新館(現在の1号館) 【1964年】



西南女学院総合計画に沿って施設設備の充実へ動き出す③
中学校の鉄筋校舎化工事から校舎完成へ 【1964年】



幼稚園が短期大学附属になり短期大学構内に新園舎移転 【1965年】
1964年西南女学院シオン山幼稚園と改称され、1965年短期大学保育科実習園として本格的に発足しました。



中高生寮竣工 【1969年】
ベビーブーム世代の大学進学率上昇に伴い、従来の学寮(中学生・高校生・短大生居住)への短大生入寮希望者が激増したため、新たに中学・高校生寮を建築して、短大生寮と区別しました。



南陵(中学校・高等学校)プール新設(水泳の授業風景) 【1970年】



創立50周年記念施設整備事業として短期大学総合体育館を建築 【1971年】



短期大学に食物栄養科が設置認可され、新たな栄養士養成が始まる 【1971年】



西南女学院100年のあゆみ写真展

5. 充実期 (1977~1991)

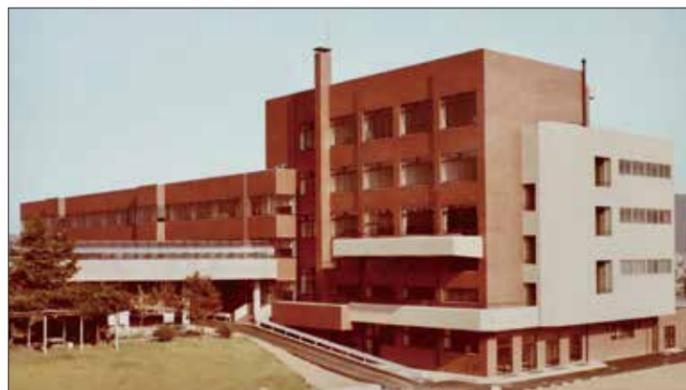
念願の中高一貫教育がスタート、全学院の一貫教育体制の実現を目指す。

1978(昭和53)年4月、井上義巳が第9代院長に就任し、6月の理事会において中学校と高等学校を一貫とする方針が決まりました。四年制大学設置に備えて、高等学校を南陵に移転し、中学校と高等学校が同一のキャンパス内で密接な連携のもとに一貫教育を実施することになったのです。正門前に建学の精神「感恩奉仕」の石碑が設置され、1979(昭和54)年8月に中学校・高等学校総合校舎が完成しました。1980(昭和55)年、長年、推進に努めていた中高一貫教育がついに始まりました。

その後、短期大学と高等学校との連携についても模索が始まりました。短期大学から高等学校へ出向いての短期大学紹介や、短期大学でのオープンキャンパスなどの新しい企画が出され、1990(平成2)年度から本格的に実施されました。四年制大学設置の機運も高まり、女学院全体の一貫教育体制が一段と進むこととなります。充実期はさらなる発展への布石を打った時代でした。



中高正門前に「感恩奉仕」の石碑設置 【1977年】
西南女学院の建学の精神「感恩奉仕」の文字は第5代中学校校長 水田正義氏直筆です。



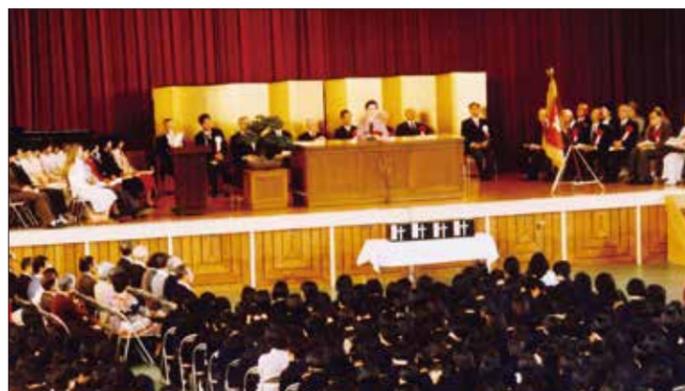
中高一貫体制の開始 中高総合校舎竣工 【1979年】
西南女学院将来計画の第一着手として中高総合計画の実施が決定され、南陵に高校校舎を新築し、翌年から中学校舎と連繋した一貫教育が開始されました。



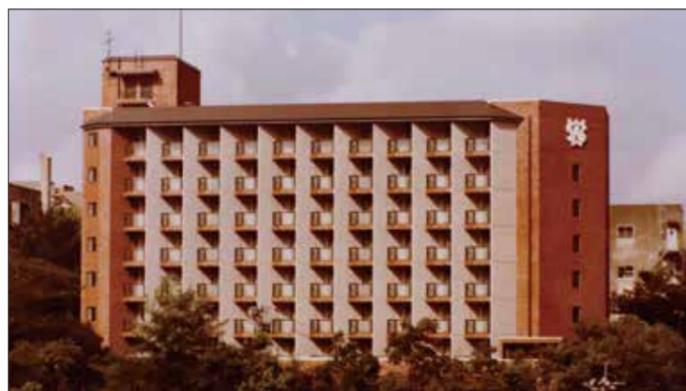
短期大学主催による初の米国研修旅行を実施 【1980年】
英語科36人、家政科2人の学生がアメリカ ミズーリ州にあるミズーリ・バプテスト大学での約1か月間の研修に参加。米国との交流がスタートしました。



第1回中学校・高等学校音楽会を開催(於:戸畑福祉文化ホール) 【1981年】
部活動で活躍している生徒の練習の成果を保護者の皆様に見てもらい、激励と協力を頂くことを目指したものであり、これ以後恒例の学校行事となりました。



西南女学院創立60周年記念式典(於:短大第一体育館) 【1982年】
60年間の伝統に学び、新しい前進の時代へ。荘厳に卒業生、学生・生徒・園児、教職員ら約3500人が祝いました。



新短期大学生寮(第二学寮)の竣工 【1983年】
当時、西日本一帯から増えつつあった短期大学入学者のために、本格的な教育寮として相応しい環境と居住空間が必要であると考え、8階建て270人収容の新寮舎を建築しました。



原記念館(5号館)に短期大学LL設備新設 【1984年】
教室が学生数の増加により狭隘となり、録音室の遮音効果や、教材の製作・整理・保管の面で十分に機能し得ない状態になったため移転、新設されました。



短期大学 海外の大学と念願の姉妹校締結 【1985年】
日米間の文化の理解を深めるため、アメリカ ジョージア州にあるティフト大学学長が来学し、初めての姉妹校関係が樹立され、学生や教授の交流計画などが具体化されました。



第9代井上義巳院長の学院葬(於:短大第一体育館) 【1986年】
中高一貫教育の実現、新短期大学生寮の建築、短大と中高の運動場やテニスコートの整備など教育環境の改善に尽力された井上院長の急逝。学生・生徒・園児・教職員、女学院関係者による学院葬が執り行われました。



短期大学第35回卒業生からキャンパス中庭に花時計寄贈 【1986年】
縦、横5メートル 直径3メートルの茶色いレンガ製文字盤に白い針がくっきりと浮かび上がるデザインで周りにはペチュニア400本、サルビア200本が植えられました。



西南女学院将来計画のため新日本製鐵八幡製鉄所所有の保養施設購入 【1988年】
河内貯水池湖畔に立地する河内研研所は、敷地面積24131㎡、地上2階・地下1階の建物で、約100人の使用が可能。クラブ・サークルの特別教育活動やゼミ、研修会などで利用されました。



短期大学春季特別伝道集会(於:短大第一体育館) 【1991年】
5月29日から31日までの3日間、主講師に中村哲先生(ベシヤール会・JAMS医師)をお招きし、主題「平和の尊さ」についてご奨励をいただきました。

～西南女学院は2022年に創立100周年を迎えます～



6. 発展期 (1992～2008)

困難を乗り越え遂に四年制大学を開学。新たな時代が幕を開ける。

1994(平成6)年4月、西南女学院大学が開学しました。四年制大学設置については、第5代原松太院長が1947(昭和22)年の創立25周年記念式典で、設置計画のための充実強化が必要と述べたことに始まるとされています。

その後、大都市での高等教育機関の増設の抑制政策がとられていた時期もあるなど、さまざまな困難な局面を乗り越えて、1989(平成元)年に保健福祉学部としての四年制大学設置を進める方針を理事会は承認しました。創立70周年(1992年)記念事業として始められ

た四年制大学設置計画は、遂に実現したのです。

当初、保健福祉学部看護学科・福祉学科の1学部2学科でスタートした西南女学院大学は、その後に栄養学科、人文学部(英語学科、観光文化学科)、助産別科を開設し、2008(平成20)年までに現在の2学部5学科・1別科となりました。

発展期は開学した大学と共に新たな歴史を刻んだ時代でした。



西南女学院創立70周年記念式典 【1992年】
北九州市総合体育館に4000人超が出席しました。
学院歌「シオンの丘(作詞：谷川雁 作曲：新実徳英)」発表



中学校汀会夏季修養会 【1992年】
場所：マリンピア・くろい 主題：眞の友
「修養会」日常から離れ、神様のことや建学の精神について学び考える時間です。



大学校舎新築工事 【1993年～1994年】
左上：1993年2月 起工式でのV.L.キャンベル理事長 右上：1993年9月
左下：着工前のグラウンド 右下：1994年1月



第1回西南女学院大学入学者合格発表 【1994年】
1993年12月21日「西南女学院大学設置認可証」を受領。翌年2月に保健福祉学部看護学科と福祉学科の入学試験を実施しました。



西南女学院大学第1回入学式 【1994年】
保健福祉学部看護学科65人福祉学科116人、教職員38人



高校サマーキャンプ修養会 【1994年】
場所：国民宿舎「ひごさん」 主題：輝く太陽の下で



短期大学家政科被服専攻 一般公開のファッションショーを開催 【1995年】
短期大学家政科被服専攻初の試みとして、株式会社井筒屋のご協力により、卒業制作展をファッションショーとして一般に公開。衣装や演出は学生たちの手によるものです。



西南女学院同窓会館新築 【1995年】
マロリー記念館3階の同窓会室を基金によって中門横に移転しました。



高木俊一郎学長寄贈レリーフ 【1998年】
「平和をつくり出す人たちは さいわいである 彼らは神の子と呼ばれるであろう」
(マタイによる福音書5章9節)



短期大学開学50周年記念式 【2000年】
1950年、英語科28人、家政科27人の入学生でスタートした短期大学は、50年の時を経て4学科1590人になっていました。



社会福祉法人福音会 高齢者複合施設ふれあいの里とばた 【2007年】
西南女学院は建学の精神を柱とした社会福祉法人を北九州市戸畑区に設立しました。



助産別科を開設 【2008年】
1年課程 定員20人(2014年から16人)

7. 飛躍期 (2009~2021)

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」採択 【2009年】
 大学教育推進プログラム[テーマA]として「高年齢施設での福祉・看護・栄養の統合教育」が採択され、ふれあいの里とばたでの合同実習や、施設と大学間での遠隔授業を実施しました。

創立90周年記念事業 北陵正門・1号館前広場の改修 【2012年】
 創立90周年記念事業として大学・短期大学の正門と、1号館前の広場が改修されました。

100周年に向けてさらなる飛躍を目指す学院内、新型コロナウイルス感染症の流行で絆が一層深まる。

2012(平成24)年、西南女学院は創立90周年を迎え、大学及び短期大学の正門からシオンの坂にかけて大幅な改修を行いました。大学及び短期大学部では学修環境の整備や学生支援のために学生総合支援室を設置するとともに、地域とのつながりを強めるため、地域連携室を開設しました。中学校・高等学校では、創立期から受け継がれる英語教育に一層力を入れ、国内でも先進的な英語教育を実践していくことになります。
 そのような中、2020(令和2)年、新型コロナウイルス感染症が大流行し、世界中で猛威を

振りました。学院でも長期間の休校や休園、対面授業から遠隔授業への変更、修学旅行や大学祭が中止になるなど、今まで当たり前できていたことができなくなりました。しかし、長引く自粛期間は、改めて教育の場の在り方を考える機会となり、新しい時代に合った教育を模索する中で、さらなる100周年に向けて卒業生や学生・生徒・園児、教職員の絆はより深まっていったのです。
 飛躍期は明るい未来につながる変革の時代でした。

創立90周年記念「Seinan Jo Gakuin Concert」同窓会 【2012年】
 創立90周年を記念して、同窓会主催の「Seinan Jo Gakuin Concert」が開催されました。西南女学院中学校・高等学校の卒業生が中心となり、校歌の斉唱やミュージカルが上演されました。

大学開学20周年 【2014年】
 大学開学20周年を記念して、北九州ソレイユホールにて乙西洋匠氏をお招きし、「みんながって、みんないい」と題して講演会を開催しました。

新しい時代の学びに対応した設備 【2015年~】
 新しい時代の学びに対応するため、アクティブラーニングスペース「SWITCH」、Mac Room「iSwitch」、Study Room「SWITCH Café」等を整備し、より良い学修環境を構築しています。

ロウ記念講堂改修 【2016年】
 ロウ記念講堂は2015年の台風15号による被害を受け、初めての大改修工事を1年間かけて行われました。2016年11月には改修工事完成記念礼拝が実施されました。

ロウ記念講堂改修の記念品 【2016年】
 ロウ記念講堂の大改修では、全体の8割に当たる床材を交換しなければなりませんでしたが、その建築当時の床材を加工し、手鏡を作成しました。

学生の自主活動グループ「Step Up」設立 【2016年】
 大学生の学生による学生のための自主活動グループとして「Step Up」を設立しました。自習スペースや個別ブースを備えた学びの場である「WEST」も整備し、充実したキャンパスライフになるように日々活動しています。

マロリーホールのステンドグラス 【2017年】
 マロリーホールのステンドグラスは短期大学の卒業記念品として1996年から始まり、2017年には最後の窓にステンドグラスが献納され、21年かけて光の聖書が完成しました。

地域連携室公式イメージキャラクター「要ちゃん」が決定 【2017年】
 地域の皆様とのつながりを充実させるため、地域連携室が発足しました。地域連携室の公式イメージキャラクター「要ちゃん」は学生や教職員からの応募の中から決定されました。

西南女学院創立100周年イベント「関門花火大会での校歌花火」 【2019年】
 創立100周年のイベントとして、関門花火大会で校歌花火を実施しました。西南女学院の校歌が流れる中で、色とりどりの花火が関門海峡を彩りました。

新型コロナウイルス感染拡大のなかでの学校生活 【2020年~】
 感染症が拡大し、長期の休校や休園、対面授業から遠隔授業への変更など、今までにない体験となりました。そのような時代でも、西南女学院の学びを大事にし、勉強、実習、大学祭などの学校生活を送っています。